





## ○ 「学年発表会」の様子



## ○ 探究活動を終えて～生徒たちの声

活動を終えた生徒たちの「ふりかえり」からは、主体的に課題へ取り組んだからこそ得られた、多くの「気づき」が感じられました。その一部を抜粋してご紹介いたします。

不満に思っていた学校のルールにも、様々な理由や背景があるのだと知り、多角的に物事を見る大切さを学びました。不満を口に出して終わりにするのではなく、どうしてそうなのか考えるようになった。

アンケートでの意見を集め、それを分析するのは大変でしたが、今までわからなかったアンケートでみんなの意見や不満を知ることができた。みんなで行動すれば変えられるものもあるとわかった。

購買に焼きそばパンが追加されたことで、自分たちが調査し実現するということを体感できた。また、日常がよりよくなる提案や実現可能な目標がたくさん隠れていることに目を向けて学校生活を送れるようになった。

先生方や事務長さんへのインタビューを通して、予算やルールのことを理解できた。ただ、実現しようとすれば協力してくださる態勢だったのが印象的だった。私たちもできる範囲で改善を繰り返したいと思った。

## ○ 編集後記～次なるステップ「地域の探究」へ

1学年での「前南探究」は、今回の発表会をもって一つの区切りとなります。ここで培った「問いを立て、証拠を集め、論理的に伝える」というスキルを携え、2学年ではさらに視野を広げ、地域社会や身近な生活の中にある課題解決に挑戦してまいります。

2年生の探究でやりたいことについてアンケートを取った結果です。AI、教育、医療に興味を持っている生徒が多いことが分かります。今後とも、生徒たちの主体的な学びを温かく見守っていただければ幸いです。



解決策や実現に向けて、班同士で話し合いアイデアを出し、先生や事務の方々に取材をするなど精力的に活動している様子が見られました。そして、探究が進むほど、実現への障壁が見えてきて、実現には財政面、ルール面、合意形成など様々な点をクリアしていく必要があることも知れたのではないのでしょうか。今回のテーマを継続していく班（生徒）がいてもいいですね。「探究」の考え方、方法を身につけ、2年の探究や学校・社会生活に役立ててください。（教頭 長岡）

☆校長より☆。探究活動を進めていく上で、最も難しいのが「課題の設定」です。課題とは理想の未来と成り行きのある未来のギャップとすることができますが、これを考えるためにはその社会で起きていることを「自分ごと」として考えなければなりません。今回、1年生は前南での生活を自分ごととして捉え、課題を設定し、探究活動のサイクルを経験することができました。今度は「地域社会」、「身近な生活」を自分ごととして捉え、次の探究活動に進んでいってください。探究活動の経験は、この先大学での研究、社会での仕事において、とても役に立ちます。頑張りましょう。（原 拓史）